

半期の活動報告

要望書に関する活動



1: 要望書回答の要請

2014年度後期自治委員会総会で承認された要望書および要望書資料を1月10日に実施した要望書説明会で大学に提出しました。そして回答の得られた項目に関しては自治会総合情報誌『NASCA』やウェブサイト回答を掲載しました。しかし、一部の項目に関しては回答がなされませんでした。そのため要望書公開回答を実施できませんでした。

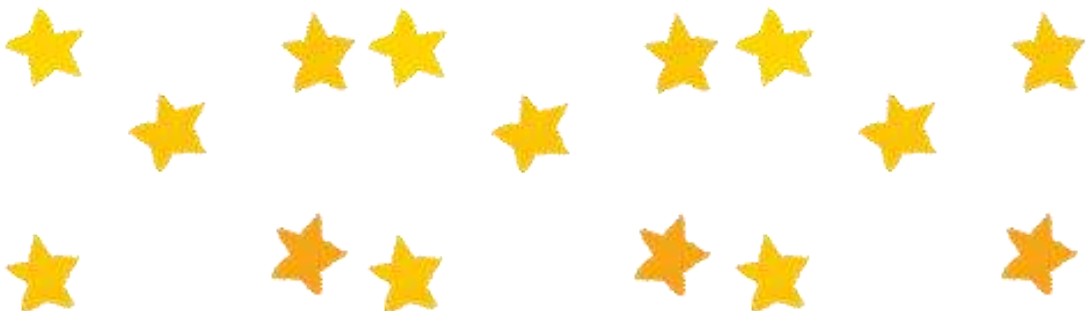
また、要望書に対する回答がなされないことは、学生の要望・意見が大学運営に反映されたかが不明であると考え、9月7日に大学に早急に回答するように要請しました。しかし、11月2日の時点でも回答が得られなかったため、要望書に対する回答について質問状を大学に提出しましたが、11月14日時点で回答がなされていません。

2: 要望アンケートの実施

学生の実情に沿った要望書案を作成するためには、学生の要望・意見を収集し、学生の実情を把握する必要があります。そこで学生自治会は9月28日から11月13日にかけて要望アンケートを実施しました。

3: 要望書案・要望書資料の作成

学生自治会は要望アンケートや意見箱を通して得られた要望・意見をもとに要望書案を作成しました。また、要望書案の要望内容の補足や裏付けとなる要望書資料を作成しました。





情報収集・情報宣伝に関する活動



1：学生の意見や大学に関する情報の収集

学生自治会は、意見箱やウェブサイト掲示板を利用して学生の意見を収集しました。意見箱に寄せられた意見に対する回答を自治会総合情報誌『NASCA』に掲載しました。

また、大学に関する情報を収集するため、学生センターとの話し合いや大阪府大学教職員組合との話し合いを定期的に行いました。

2：学生生活にかかわる情報の宣伝

学生自治会は、情報収集の活動を通して得られた学生生活に関する情報を学生に知らせるため、自治会総合情報誌『NASCA』や『Twitter』、ウェブサイトを通して学生に情報宣伝を行いました。

また、意見箱に寄せられた意見のうち、大学に対するものを大学に提出し、適宜回答を要請しました。



大学運営に関する活動



1：府市大統合に関する情報の収集

第2期中期目標にもある通り、府市大統合は現在検討が進められています。そこで学生自治会は、府市大統合が学生に及ぼし得る影響を調査するため、府市大統合に関する情報収集を行いました。情報収集の結果、10月13日に行われた教育研究会議では「次期中期目標期間中における大阪市立大学との統合による新大学の実現に向け、準備を進める」と記載された変更案が提示されたということが得られました。

2：年度計画に関する情報宣伝

大阪府から指示される中期目標および中期目標をもとに大学が作成する中期計画・年度計画には、学費や学士課程教育に関すること等、学生生活に関わることが記載されています。しかしそれらの運営計画は学生向けには公開されていないため、学生が知るができるように『NASCA vol.48 ～要望アンケート情宣号～』に平成27年度計画の学生に関する項目の特集記事を掲載しました。



★ 立て看板管理局 ★

1：立て看板とステージバックの管理

立て看板管理局は、立て看板が安全に管理・運用されるために、悪天候時に立て看板を倒す、立て看板の立て方について日常的に確認を行うなどして、立て看板の管理を行いました。

また、部分破損や老朽化が進んだ立て看板を使用し続けることは、立て看板による事故につながる可能性が増します。そのため、7月3日に立て看板の一斉点検を行いました。部分破損や老朽化が確認された立て看板5枚、ステージバック2枚については、9月11日に修理・補修を行いました。

2：立て看板講習会の実施

立て看板管理団体である友好祭実行委員会および白鷺祭実行委員会が立て看板の使用方法を熟知していることは、安全に立て看板を管理するうえで必要であると立て看板管理局は考えました。そこで立て看板管理局は立て看板の使用方法に関する講習会を開きました。講習会には74人が参加しました。

3：白鷺祭中の管理体制の強化

白鷺祭本祭典期間中には、立て看板の危険性を知らない一般の方が多く大学を訪れることで、立て看板による事故の危険性が平時より増すことが想定されました。そこで立て看板管理局は、立て看板の近くに見張りを置き、定期的にステージバックの見回りを行うことにより立て看板の管理体制を強化しました。

また、使用中のステージバックを倒す場合の明確な基準が存在しませんでした。そこで立て看板管理局は白鷺祭本祭典中にステージバックを倒す場合の天候の基準に関する意見を立て看板の管理団体である白鷺祭実行委員会に求め、ステージバックを倒す際の天候の基準を策定し、白鷺祭本祭典中にその基準を運用しました。



★ その他の活動 ★



1：学生団体連絡会議

11月の学生団体連絡会議では、第34回全学新歓実行委員会が発足しました。そこで学生自治会は第34回全学新歓実行委員会の活動が学生生活をよりよくする一助になると考え、学生自治会役員を送る等、第34回全学新歓実行委員会に協力しました。

また、学生自治会は学生と学生課および高等教育推進課職員との相互理解が深まると考え、学生団体連絡会議の構成団体と共に月に一度学生センターとの話し合いを行いました。

2：大型PA再購入実行委員会

大型PA再購入実行委員会の規約に一部誤字や表現の重複が見られたため、7月13日に行われた総会で規約を改正しました。

また、老朽化したPA機材を使用し続けると、機材の劣化や維持費の増加等の負担が生じます。そこで、大型PA再購入実行委員会は9月15日に臨時総会を開き、老朽化したPA機材を中心に第4期再購入機材を決定しました。

さらに、月に一度定例会を開き、大型PAの現状確認や構成団体間の情報共有や、今回の第4期再購入を円滑に行えるように調整を行いました。また第5期再購入積立に関する調整を行いました。

3：ステージ管理委員会

ステージの安全な管理・運用や情報共有のために、月に一度定例会を開き、話し合いを行いました。また、ステージを安全に運用するために、ステージ管理局が中心となり、ステージの監視・保護およびステージの利用団体に対して注意喚起等の管理業務を行いました。

平成28年にはB1棟の改修工事が予定されているため、学生会館前にステージを設置できなくなることが学生サポートグループへの問い合わせで判明しました。そこでステージを利用する学生団体・クラブから意見を収集し、工事期間中も学生が継続してステージを利用できるように大学に求めるためにステージ移設場所検討会を開きました。

